寺田縄の「どんど焼き」　　（２０１６．１）

今年の「どんど焼き」は、１月１１日に行われました。

私たちの住む寺田縄地域には、３か所に道祖神が祀られています。ここには正月の注連縄、お飾り、だるま、お札などが納められます。

寺田縄地域の道祖神

（1）東橋を渡り、日枝神社入り口の道祖神を安置しているところです。

道祖神のお社が隠れてしまう程、沢山の正月飾りなどが納められました。

道祖神の銘が刻されています。

（２）

金田駐在所近く、市道長持寺田縄線が古川排水路を渡る手前に道祖神の社があります。

お社、多数の五輪塔もまとめられています。
かつてはこの左手にお社、五輪塔が並べられ祀られていましたが付近の開発によりこの地に移されました。

石片に道祖神の銘が読み取れます。

（３）

「ＪＡあさつゆ広場」の信号角にお社と馬頭観音、農耕馬霞号の記念碑が並びます。ここは寺田縄地域の西部、飯島集落の隣に位置します。近くの農家さんのご厚意でこの地に道祖神が新設されました。

真新しいお社が目に留まると思いますが、交通事故でお社などが壊され、新設されました。

お飾りはまだまだ増えると思います。

毎年借用する田んぼに「どんど焼き」のサイトが設けられました。

神様である道祖神を安置する場所に正月飾りなどをまとめます。地方によっては道祖神を含めお焚き上げする所もあります。寺田縄では自治会の役員さんが３か所の道祖神に祀られた正月飾りなどを集めます。運ばれたお飾などでサイトを作ります。

点火に先立ち、自治会長さんから「どんど焼き」のいわれなどが詳細に語られました。

点火前、寺田縄日枝神社総代さんにより塩・酒で清められ、神様をお迎えします。

自治会長さんにより、サイトに点火されました。

竹の棒先につけられた団子を火で焼きます。

中央の燃え盛る火を遠巻きにしながら団子を焼きます。

自分の家で作った団子、金田公民館で作った団子などを持ち寄り、火にかざします。

寒い日でも火の近くは熱さが伝わります。とても、団子が焼けあがるまでは近くには居られません。

火の熱は厄を払うための試練なのでしょうか。健康に過ごすための試練なのでしょうか。成績が上がるための試練なのでしょうか。さてまた豊作のための試練なのでしょうか。

それぞれの思いと願いを胸に火の熱に負けないように、団子が焼けるのを待ちました。

様々な願いを背負ったどんど焼きの火が消されました。

来年この地に立つとき、年来の願いが叶うことを祈念して、「どんど焼き」の行事が終了しました。

道祖神（ドウソジン・ドウソシン）

村里の入り口、村の境、中心、道路の辻などに祀られている神様で、村内に悪霊・災い・疫病が入り込むことを防いでいる神様とされています。悪霊の侵入を防ぐ・さえぎることから「塞・サエの神」ともいわれています。昔から全国的に分布し広く信仰されている神様で後に交通安全・縁結び・安産の神ともされ子どもと親しい神ともいわれています。

道祖神をまつる行事

小正月の火祭りと結びついて１月１４日、１５日に正月飾り・しめ縄・お札などを集めて燃やす「どんど焼き」として全国的に行われています。最近は、小正月近くで住民の集まりやすい土・日に行われている所が多くなっています。寺田縄近くの二宮海岸で行われる「左義長・サギチョウ」は道祖神のまつりとして知られています。

金田地区での「ふるさと歴史再発見事業」の活動の一環として、地元で行われていた道祖神まつりの体験談をお聞きしました。

『子どものころ、集落ごとに数人に分かれてリヤカーを引きながら、すす払いの竹ざお、正月のお飾り、注連縄、わら束などを家々に出向き集めて回った。そのときお祝儀を貰った。

本通りに面して仕立てられたお仮屋（数人の子どもが入れる、仮に建てられた小屋）の前で「めいって、めいって、まいって、まいって」などの掛け声で、通行する大人を呼び込み「ほうそうも軽く、はしかも軽く、悪魔ばらい・・・」などのお祓いをしてお酒を遣わし、ここでもお祝儀をもらった。

「金田小学校に熱心な先生がおいでになって、事前に練習をしたこともあった」と回想。集められたお祝儀は年長児童（たいていは６年生）の「親方」が差配して仲間たちに分配した。

次いで、お仮屋を崩しどんど焼き（お焚き上げ）に移る。「道祖神が悪いことを背負ってくれる」「悪魔を焼き払う」「集落中の悪いことを団子焼きの火で清める」「焼いた団子を食べると風邪をひかない・虫歯にならない」「書初めが高く燃え上がると字が上達する・成績が良くなる」「燃えさしを門口において魔除け・泥棒除け」「灰を畑にまき豊作を祈願する」などが願われました。

道祖神のまつりは小遣い銭を手にできたり、皆と一緒に家々を回ったり、大人からは無礼講が認められたリ、子どもたちにとって年間の最大のイベントであり、集落にとっては皆の無病息災と五穀豊穣を祈願する大切な年中行事でした。』

従前の子どもたちを主体とするイベントは、戦後になってお祝儀、親方など、お金や子供たちの上下の隔たりなどの問題から、か、ＰＴＡ、子ども会などの大人の運営に移り、今では金田地区の自治会ごとに設置されたサイトで「だんご焼き」だけが行われています。（「私たちの住むまち金田」一部改）